
アイ・スペック

熱血バレー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アイ・スペック

【Nコード】

N4657V

【作者名】

熱血バレー

【あらすじ】

世はアイ・スペックを持った人々が争い、従えていった時代。主人公の清田慶次もその所有者であった。果たして慶次はこの時代を乗り切り、あの忌まわしき組織を解体できるのか？

みんな楽しみ？技能試験（前書き）

二作目の小説です。あまり時間もない年なので投稿が遅くなると思います。が楽しんで読んでください。

みんな楽しみ？技能試験

「眼」に秘められた力。

それぞれの人の個性があるように、それぞれ異なった眼を持つて
いる。したがって、眼に宿りし力も、それぞれ異なる。その力こそ、
「アイ・スペック」。しかし、アイ・スペックを持つものは、ごく
一部の人間に過ぎない。また、両眼に力を宿した者が存在するので
あれば、それは奇跡としか言いようがない。

ここは、アイスペック日本養育学校。通称『E・S・J』この
高等部、1-Dに所属している少年が、この物語の主人公である。

その少年の名は、

『清田慶次』
きよたけいじ

慶次というのだから、「前田慶次」のような人を想像するかも知
れない。（実際、違うのは「清」だけ）しかし、この慶次は絵に描
いたような草食系男子である。さらに、運動音痴で頭もよくない。
取り柄は優しさだけという少年である。

慶次とは対照的に、まさに肉食系女子のような少女もいる。幼馴
染の『不知火さくら』である。こちらも、名前に縛られてはいけな
い。『さくら』と聞けばおしとやかなイメージがあるが、1-Dの
大半の生徒が「あいつは、おしとやかなの、お」の字もない。」とい
う。

そして、今日はE・S・J高等部一年の技能試験の日である。た
だ、試験といってもまだ入学3日目であるため個人の实力を見るた
めである。

この試験の項目は次の通りである。

？所有者の技術

？アイ・スペックの能力（攻撃、防御、補助の3つ。これらは、A

と、D、A Sと表される。）

これらの項目を「SS」「D」で評価する。（平均はBで、SSは歴代でまだ一人しかいない。Dがつくと退学）これら进行评估するために、学年担当の先生に3分間攻撃と防御を行う。その六分間の中で好きなとき補助を行うという形だ。

さあ、二人の評価はどうなるのか？

みんな楽しみ？技能試験（後書き）

今回は説明で終わってしまいました（泣）

次回はやっとな詞がかけるかな？そんなところです。

さくらの技能試験（前書き）

不知火さくらの技能試験が始まる。さくらが、圧倒的力を見せるも、アルベルト先生には、攻撃が通らない。

さくらの技能試験

・試験日当日ー

生徒「キンシヨーしてきた。」

生徒「何をやるのか、わくわくするー。」

みんなこんな風にこの試験を甘く見ているようであった。今年の学年担当の先生を知らずに。

そのころ、職員室では、

教頭「先生、今年の一年の試験頼みますね。」

学年担当「任せてください。僕が教師やる意味の大半はこれですかね」

教頭「（出たよー。あの先生の悪い癖。）」

そんなわけで、技能試験スタートです。

学年担当「えー今年の学年担当のアルベルトです。気楽に楽しくやっていきましょう。早速1ーAの人からお願いします。」

そういつて、手に持った注射の針が光ると同時に、生徒全員がアルベルト先生に恐怖を抱くのであった。

そうして、1 - Dの順番が回ってきた。といつても、一クラス15人程度なので6時間しか待っていない。いやいや6時間何もせずに待っているのは、苦痛である。しかも、時々聞こえる叫び声も精神的にきつい。そんな調子だったので、精神的にも一部を除いてくたくたであつた。（一部とは不知火のこと）

アルベルト「落ちこぼれの1 - Dの皆さんの番です。（僕の獲物はターゲットいるのか。ヒヒヒッ）」

言っていなかったが、この学校は、Aから順に入学試験の結果がいい人が入る。つまり、Dはギリ合格のおばかクラスなのだ。（中には、本人の希望でクラスを下げる人もいる。）

そして一番の不知火の試験が始まる。

アルベルト「あなたは、学年トップなんですね。何で下げたかは知りませんがその力、僕に見せてくださいよ。」

まずは、三分間のAの試験。

さくら「アルベルト先生、Dをがんばってくださいね。じゃなきゃ、焼け死にますよ（笑）。」

アルベルト「あー怖い怖い。」

さくら「相当の余裕ですね。じゃあ、いきますよ。死の火炎の世界」デスフレイムワールド

そついったとたん、目が光り辺り一帯が業火に包まれる。

アルベルト「あなた、“炎の眼”ですか。この年でこれほどの技が使えるとなると、あなたの力も図り知れませんか。でも、この技は攻撃用ですか？」

さくら「いえいえ、今からが本当の攻撃です。」

炎は、見る見るうちに小さくなっていく。そして、アルベルト先生を包んでいく。

さくら「ヘルフレイムロック業火の縛り」

アルベルト「さすが、学年トップ。でも甘い。それは、残像です。」

さくら「なら、私の“スペックウェポン”を見ますか？」

次回、残り一分となりさくらが本気を見せる！！

さくらの技能試験（後書き）

やっと話になりましたが、まだ本編には言っていないんですよ（泣）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4657v/>

アイ・スペック

2011年10月9日03時36分発行